

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部2年	学期及び曜時限	前期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	西尾 嘉津政				
実務経験と その関連資格	理学療法士として大阪回生病院に6年間勤務勤務。 心大血管疾患リハを中心に、整形、中枢、呼吸器、内部障害疾患の急性期、回復期、外来、訪問リハに従事。 3学会合同呼吸療法認定士、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダー、認定理学療法士(循環、学校教育)の資格を所持。				
《授業科目における学習内容》					
各検査項目を提示し模倣を行ってもらい、手順の理解、評価の妥当性、測定結果を記録することが出来るように実技中心に実施する。					
《成績評価の方法と基準》					
参加度:10% 小テスト:10% 筆記試験:40% 実技試験:40%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版 「新・徒手筋力検査法 第10版」 協同医学出版社					
《授業外における学習方法》					
形態測定・関節可動域訓練・徒手筋力テストとともに実技形式での練習が必須となります。授業外でも実技練習を行ってください。					
《履修に当たっての留意点》					
評価学は理学療法士にとって基礎を作る授業となります。練習しないと上達しないので積極的に動いてください。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	理学療法評価の流れイメージできる	「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版	検査器具の名称を確認	
	各コマに おける 授業予定	評価学総論, 形態測定総論			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版	評価項目のランドマークを確認	
	各コマに おける 授業予定	形態測定(下肢長, 上肢長)			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版		
	各コマに おける 授業予定	形態測定(周径), 関節可動域総論			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版	方法の確認	
	各コマに おける 授業予定	ROM測定 肩甲帯(屈曲-伸展, 挙上-引き下げ), 肩関節(屈曲-伸展)			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版	方法の確認	
	各コマに おける 授業予定	ROM測定 肩関節(内転-外転, 外旋-内旋, 水平屈曲-水平伸展)			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 肘関節(屈曲-伸展), 前腕(回内-回外)		
第7回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 手関節(掌屈-背屈, 尺屈-橈屈), 母指・手指		
第8回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 股関節(屈曲-伸展, 外転-内転, 外旋-内旋)		
第9回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 膝関節(屈曲-伸展), 足関節(底屈-背屈)		
第10回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 足部(外がえし-内がえし, 外転-内転)		
第11回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 母趾(屈曲-伸展) 足趾(屈曲-伸展)		
第12回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 頸部(屈曲-伸展, 回旋, 側屈)		
第13回	授業を通じての到達目標	実測することができる	「理学療法評価学 改訂第6版」金原出版	方法の確認
	各コマにおける授業予定	ROM測定 胸腰部(屈曲-伸展, 回旋, 側屈)		
第14回	授業を通じての到達目標	MMTの概念を知る MMTの段階付けを説明できる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	関節可動域の小テスト勉強
	各コマにおける授業予定	徒手筋力検査(MMT)総論		
第15回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認
	各コマにおける授業予定	MMT 肩甲帯周囲, 肩関節(屈曲-伸展, 内転-外転)		

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法評価学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) <small>時間(単位)</small>
対 象 学 年	夜間部2年		学期及び曜時間	前期	教室名	5F機能訓練室
担 当 教 員	西尾 嘉津政	実務経験と その関連資格	理学療法士として大阪回生病院に6年間勤務勤務。 心・大血管疾患リハを中心に、整形、中枢、呼吸器、内部障害疾患の急性期、回復期、外来、訪問リハに従事。 3学会合同呼吸療法認定士、地域包括ケア推進リーダー、介護予防推進リーダー、認定理学療法士(循環、学校教育)の資格を所持。			
《授業科目における学習内容》						
各検査項目を提示し模倣を行ってもらい、手順の理解、評価の妥当性、測定結果を記録することが出来るように実技中心に実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
参加度:10% 小テスト:10% 筆記試験:40% 実技試験:40%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
「理学療法評価学 改訂第6版」 金原出版 「新・徒手筋力検査法 第10版」 協同医書出版社						
《授業外における学習方法》						
形態測定・関節可動域訓練・徒手筋力テストとともに実技形式での練習が必須となります。授業外でも実技練習を行ってください。						
《履修に当たっての留意点》						
評価学は理学療法士にとって基礎を作る授業となります。練習しないと上達しないので積極的に動いてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 肩関節(外旋-内旋, 水平屈曲-水平伸展)肘関節(屈曲-伸展)				
第17回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 前腕(回外-回内)手関節(掌屈-背屈, 橈屈-尺屈)				
第18回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 手指①				
第19回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 手指②				
第20回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 股関節(屈曲-伸展, 外転-内転)				
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第21回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認	
	各コマにおける授業予定	MMT 股関節(外旋-内旋), 膝関節(屈曲-伸展)				

第22回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認
	各コマにおける授業予定	MMT 足関節(底屈-背屈, 内反-外反)		
第23回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認
	各コマにおける授業予定	MMT 母趾(屈曲-伸展), 足趾(屈曲-伸展)		
第24回	授業を通じての到達目標	MMTの段階付けができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	筋の起始・停止確認
	各コマにおける授業予定	MMT 頸部(屈曲-伸展) 体幹(屈曲-伸展, 回旋) 骨盤引き上げ		
第25回	授業を通じての到達目標	整形外科の病態を把握することができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	各疾患の理解
	各コマにおける授業予定	整形外科疾患検査①		
第26回	授業を通じての到達目標	整形外科の病態を把握することができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	各疾患の理解
	各コマにおける授業予定	整形外科疾患検査②		
第27回	授業を通じての到達目標	整形外科の病態を把握することができる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	各疾患の理解
	各コマにおける授業予定	整形外科疾患検査③		
第28回	授業を通じての到達目標	痛みをスケールとして主観的に評価できる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	病理学・機能障害学復習
	各コマにおける授業予定	痛みの評価		
第29回	授業を通じての到達目標	痛みをスケールとして主観的に評価できる	「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	病理学・機能障害学復習
	各コマにおける授業予定	痛みの評価		
第30回	授業を通じての到達目標		「新・徒手筋力検査法 第10版」協同医書出版社	
	各コマにおける授業予定	総復習, まとめ		